

連続ワークショップ参加者募集！

京丹後アートフェスティバル 2024

知^るプログラム

2024年10月～12月までの間、全4回実施 **参加無料**

アーティストは作品を制作をするとき、どのような視点で目の前のものと対峙し、またどのようなプロセスを経て新しい表現を生み出しているのでしょうか？

この「知るプログラム」は、普段の生活や学校では出会わない表現を体験しながら、このまちの文化的資源や、私たちが生きる社会、まち、環境などについて見つめなおすワークショップです。

1年目のテーマは「多様な表現を知る」でした。2年目となる今年度は「丹後を素材に作品づくり」です。このまちでしか出会えない素材を使って、陶芸とパフォーマンスの作品づくりに挑戦します。

京丹後アートフェスティバルは、京丹後市文化芸術振興計画のもと、誰もが文化芸術に触れ、楽しみ、学ぶプログラムを実施しています。ワークショップへのお申し込みは、上記 QR コードまたは、生涯学習課までお電話ください。

会期 | 2024年9月21日(土)～12月22日(日) 会場 | 京丹後市内各所

主催 | 京丹後市、京丹後市教育委員会

問合せ | 京丹後市教育委員会事務局 生涯学習課 (TEL:0772-69-0630 Mail:shogaigakusyu@city.kyotango.lg.jp)



申込フォーム

WS①～10/15(火)締切

WS②～10/1(火)締切

ワークショップ① **廃材** × **陶芸**

みなみなさないをする

日程 | 10/19(土)、20(日)、12/1(日) 各日 13:00～16:00、10/20のみ 9:00～16:00

会場 | 島津ふれあいセンター、大宮ふれあい工房、ほか

対象 | 図工や工作など、つくることが好きなおひと、石膏での型取りにチャレンジしたいひと

2023年度は、郷土資料館に展示されているものを独自に読み解き、さまざま妄想を膨らませながら、新しい郷土資料をつくりました。今回はいわば“野生の資料館”とも呼べる、実存の空き家や蔵を使って「新しい道具」を創造します。

まずは、みんなで野生の資料館に行き、陳列されているものの中から、時代、色、かたち、など自分なりの視点でモチーフを発掘しましょう。それらを持ち帰って石膏で型をとり、そこから生まれるかたちを自由に組み合わせて、今まで見たことのない新たな道具を制作します。

講師プロフィール **金井 悠**

1984年兵庫県生まれ、2009年京都精華大学修士課程陶芸専攻修了。
2008～2013年まで「contact Gonzo」のメンバーとして、身体を激しく接触させるパフォーマンスやインスタレーションを軸に、国内外の美術館・劇場等で発表する。
2014年から自身の活動を開始。
2022年京丹後市に移住し、現在は「出土した玩具」をテーマに制作している。



ワークショップ② **古墳** × **ダンス**

たんごのダンス、 どうなっとるだあ

日程 | 10/5(土)、6(日)、11/16(土)、17(日)

各日 13:00～16:00、11/17のみ 10:00～16:00

会場 | 大成古墳群(丹後町)、丹後古代の里資料館、ほか

対象 | プロ・アマ問わず、創作や表現活動に関心のあるひと(ダンス未経験者歓迎)

みなさんは、丹後古代の里資料館に古代人が身につけていた美しいヘッドドレスが展示されているのをご存知ですか？私ははじめて見たときから、いつかそれを身につけて踊ってみたい、そんなことを思い描いていました。

ブレイキンなどダンスが世界的に注目される時代ですが、古代から続く、ひとの営みある丹後ならではのダンスを探してみましよう。

今回は、サウンドアーティスト・鈴木昭男とともに身近なモノを用いた「音」と「ダンス」を創造するワークショップも用意しています。

古墳や歴史文化が好き、身体表現に挑戦したい、創造性を高めたいひとなど、参加にダンスの経験は必要ありません。
楽しみながら、丹後の古墳と一緒にダンスを創りましよう。

講師プロフィール

宮北 裕美



米国イリノイ大学芸術学部ダンス科卒業。
舞台芸術の出演や振付を経て“立つ、歩く、座る”と言ったシンプルな動作、身の回りのモノや現象にダンスを見出し、即興パフォーマンスや視覚芸術の可能性を探る。
2012年京丹後市に拠点を移し、浜で採集した自然の石を打つダンス「Nutu(ヌトゥ)」を創始、国内外で上演。近年は美術館、鉄道、公園、日本庭園などでパフォーマンスを手がけるほか、ダンサーとして活動してきた固有の時間感覚や空間感覚を美術表現へと持ち込み、Kunsthau Dresden (2021/ドイツ)、鳥取県立博物館 (2023/鳥取) などで発表している。

ゲストアーティスト 鈴木 昭男

1941年生まれ。1963年名古屋駅で行なった《階段に物を投げる》以来、自然界を相手に「なげかけ」と「たどり」を繰り返す「自修イベント」により、「聴く」ことを探求。1970年代にはエコー楽器《アナラボス》などの創作楽器を制作し、演奏活動始める。1988年子午線上の京都府網野町にて、一日自然の音に耳を澄ます《日向ぼっこの空間》を発表。1996年に街のエコーポイントを探る「点音」プロジェクトを開始。大英博物館や東京都現代美術館など、世界各地での展示や演奏多数。

